

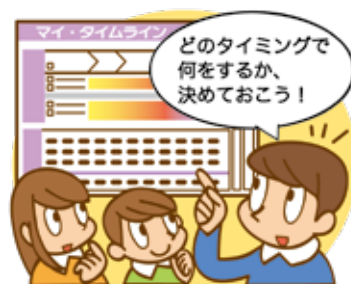
マイ・タイムラインを作きましょう

「マイ・タイムライン」は、大雨や台風などの危険が迫ったときの、自分や家族の避難行動を時系列で整理した計画表です。家族構成や地域の災害リスクの特性等に応じて、「誰が」「どのタイミングで」「どのような行動を取るか」をあらかじめ決めておき、いざというときに、あわてず、落ち着いて行動できるようにします。▶ P11 参照



マイ・タイムラインを作成するメリット

- わが家と地域の災害リスクを認識できる
- 普段から、自分と家族が災害時にどのように行動するかがわかる
- 近所の人と話し合っ作成すれば、隣近所で助け合うことの重要性がわかる



マイ・タイムライン作りに役立つサイト

国土交通省関東地方整備局「Webでマイ・タイムライン」

ウェブ上で実際にマイ・タイムラインが作成できます。



野田市ホームページ「マイ・タイムラインを作ろう」

風水害を想定したマイ・タイムラインの作り方を紹介しています。



避難スイッチを決めておこう

「避難スイッチ」とは、実際に避難を始めるきっかけのことです。右のような情報をもとに判断します。あらかじめ家族や近隣住民と話し合っ決めておきましょう。

「避難スイッチ」になりうる情報

- ① 市区町村が出す避難情報や気象庁が出す気象情報
- ② 近くの川や裏山など身近な環境で起こった異変
- ③ 近隣住民などからの避難の呼びかけ

「逃げなきゃコール」で離れて暮らす高齢者等の避難を呼びかけましょう！

近年の豪雨災害では、逃げ遅れた高齢者が自宅で被災してしまうケースが少なくありません。「逃げなきゃコール」は、家族が離れて暮らす高齢者等に直接電話をかけて避難を呼びかけようとする取り組みです。

スマートフォンアプリなどから登録すれば、高齢者等が住む地域の災害情報を通知してくれます。家族からの「逃げて！」の連絡が大切な人の避難を強く後押しします。



国土交通省「逃げなきゃコール」
具体的な使い方などが確認できます



「立ち退き避難」と「屋内安全確保」

災害時の避難とは、必ずしも最寄りの小中学校などに向かうことだけではありません。主に次のような行動があります。普段から、災害別のハザードマップを活用し、いざというとき、自分や家族はどこに、どのように避難するのかを検討しておきましょう。▶ P13 参照

立ち退き避難

市区町村が指定した避難所への立ち退き避難

災害の危険から身の安全を守るため、あらかじめ市区町村が指定した小中学校、公民館などの施設・場所です。

➡ マスク、消毒液、体温計、スリッパなどは各自で持参しましょう



安全な親戚・知人宅への立ち退き避難

災害時に避難することについて、普段から相談しておきましょう。

➡ ハザードマップで避難先が安全かどうか確認しておきましょう



安全なホテル・旅館などへの立ち退き避難

避難目的でも通常の宿泊料は必要です。事前に予約確認しましょう。

➡ ハザードマップで避難先が安全かどうか確認しておきましょう



屋内安全確保

ハザードマップで次の「3つの条件」を確認できれば、自宅にとどまって安全を確保することも考えてみましょう。



- 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
- 浸水深よりも居室が高い位置にある
- 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分にある

※土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です。

「キキクル（危険度分布）」で最新の状況をチェックする！

気象庁の「キキクル（危険度分布）」は、大雨による災害発生の危険度を、地図上に5段階で色分け表示する情報です。10分ごとに更新され、いま、どこで危険度が高まっているかが詳しくわかります。「土砂」「大雨」「洪水」のキキクルが提供されています。



危険度分布の5段階区分

黒	災害切迫【警戒レベル5相当】
紫	危険【警戒レベル4相当】
赤	警戒【警戒レベル3相当】
黄色	注意【警戒レベル2相当】
白(水色)	今後の情報等に留意

